アキュラシードPCTの基礎的検討

◎金子 成美[1)]、小杉 千穂[1)]、関 季代美[1)]、佐藤 なぎさ[1)]、角屋 勇気[1)]、安田 佳恵[1)]、小熊 裕弥[1)]、梅沢 政功[2)]
医療法人 崇徳会 長岡西病院[1)]、医療法人 崇徳会 田宮病院[2)]

【はじめに】

プロカルシトニン(以下PCT)は甲状腺C細胞から分泌される116個のアミノ酸からなるたんぱく質である。PCTは健常人において血液中では検出されないが、重症細菌感染症や敗血症の際、高値を示すため細菌感染症のマーカーとして知られている。今回BRAHMS PCTアボットから、アキュラシード PCTへ測定試薬の移行に伴い、基礎的検討を行ったので報告する。

【試薬・測定装置】

検討試薬:アキュラシードPCT(富士フイルム和光純薬㈱)、BRAHMS PCTアボット(アボットジャパン㈱)

測定装置：Accuraseed(富士フイルム和光純薬㈱)、アーキテクトi2000(アボットジャパン㈱)

【方法と検討結果】

(1)同時再現性：専用の精度管理試料2濃度を用いて各10回連続測定した結果CVは、1.19～1.59%であった。
(2)日差再現性：専用の精度管理試料を用いて1日1回10日間測定した結果CVは、2.33～3.15%であった。
(3)相関性：PCTの依頼があった患者血清81検体を測定。各々の回帰式(y：検討試薬、x：現行法)は、y=0.910x+0.68、相関係数はr=0.9969となった。(4)一致率：陽性一致率97.9%(46/47例)、陰性一致率94.1%(32/34例)、一致率96.3%(78/81例)と良好な結果だった。

【考察】

解離を認めた検体について精査を行った。両装置での再測定で各試薬での数値変動は見られなかった。吸収試験等実施したが、アキュラシード PCTで異好性抗体による非特異反応は認められず、乖離の要因としては、試薬の反応性の差が考えられた。

【まとめ】

AccuraseedにおけるPCT測定試薬の基礎的検討を行った結果、基本性能において良好な結果が得られた。また、従来検査法と比較し、良好な相関性が得られ、日常の検査に十分な性能を有していることが示唆された。

長岡西病院　臨床検査室：TEL (0258)27-8715 (直通)